

チャクラ

赤色 チャクラ1

【精神】生きることへの恐れを手放し、やる気や行動力があふれる。生命力に関係。

【肉体】直腸、肛門、尿道、前立腺、骨に関係。

【チャクラ機能の低下サイン】便秘、痔、尿漏れ、膀胱炎、骨折しやすくなるなど。

橙色 チャクラ2

【精神】自尊心の欠如を手放し、自分を認める力があふれる。物欲や性欲や感受性や情緒のバランスに関係。

【肉体】大腸、小腸、膀胱、子宮、卵巣、精巣に関係。

【チャクラの機能の低下サイン】生理痛や生理不順などの婦人科系疾患、腎機能が低下しむくみ、下痢など。

黄色 チャクラ3

【精神】抱えているストレスを手放し、個をたのしむ力があふれる。自信、不安、エゴ、個性に関係。

【肉体】胃、十二指腸、膵臓、脾臓、肝臓、腎臓に関係。

【チャクラ機能の低下サイン】消化不良、胃酸過多、消化器官の症状、糖尿病、肝硬変

緑色 チャクラ4

【精神】愛への執着を手放し、”今この瞬間”を感じる力があふれる。慈愛、希望、信頼、喜怒哀楽の感情に関係。

【肉体】心臓、血液、乳腺、胸腺、肺、気管支、皮膚、免疫システムに関係。

【チャクラ機能の低下サイン】動悸、不整脈、高血圧、乳腺の痛みなど。

青色 チャクラ5

【精神】本音と建前を手放し、自己表現力があふれる。表現力に関係。

【肉体】甲状腺、口腔、リンパ腺に関係。

【チャクラの機能が低下すると…】甲状腺の病氣、口内炎、風邪を引きやすくなるなど。

紺色 チャクラ6

【精神】頑固な自分を手放し、知性と直感の統合してゆく。知性、精神の成熟に関係。

【肉体】脳、神経系、眼、鼻に関係。

【チャクラ機能の低下サイン】頭痛、眼精疲労、睡眠障害、物忘れなど。

紫色 チャクラ7

【精神】直感的に生きられない自分を手放し、大自然や宇宙と調和してゆく。霊性、直感、超能力に関係。

【肉体】松果体に関係。

【チャクラの機能の低下サイン】物質的な満足を追いかけ、直観を否定する傾向になる。

チャクラヒーリング瞑想

赤色をイメージして循環させることで、やる気や行動力があふれてきます。
赤色は生きることへの恐れを手放し、本当の自分自身をしっかりと見つめ直す波動です。

橙色をイメージして循環させることで、安心感や自分を認める力があふれてきます。
橙色は自尊心の欠如を手放し、とらわれの枠を外し輝いてゆく波動です。

黄色をイメージして循環させることで、自分らしさ、個をたのしむ力があふれてきます。
黄色は抱えているストレスを手放し、相手の思いを受け入れる心を養う波動です。

緑色をイメージして循環させることで、”今この瞬間”を感じる力があふれてきます。
緑色は愛への執着を手放し、あるがままを受け取る波動です。

青色をイメージして循環させることで、自己表現力やコミュニケーション能力があふれてきます。
青色は本音（自分の思い）と建前（人への主張）を手放し、我慢しないで自分の思いを正しく伝える波動です。

紺色をイメージして循環させることで、洞察力があふれてきます。
紺色は頑固な自分を手放し、知性と直感の統合してゆく波動です。

紫色が循環することで、感謝と至福があふれてきます。
紫色は直感的に生きられない自分を手放し、大自然や宇宙と調和してゆく波動です。



■赤色 人生を戦うパワーが欲しい時

補色⇄緑

自我が強まり、人生を戦うパワー（行動力。情熱）があふれている色。

わがままさ、私の強さを象徴する色でもあります、個の力強さに恵まれます。

赤は行動的で、激しい色彩。身体の下部にある方がいいとされます。（頭寒足熱）

特定の対象への強い関心を示す色。



■オレンジ色 まわりの人から愛されたい時

補色⇄青

人を和ませ、まわりの人から愛されるコンパニオンの色。

陽気で身近な相手にかまってもらいたい心の状態。

赤と黄の中間色。自分の事に熱中する「赤色」に、公平さをあらわす「黄色」あわさった色。



■黄色 影響力を発揮したい時

補色⇄紫

太陽の光のようにあまねく広がり、成長をうながす色。

明るくポジティブな存在感、周囲への影響力。

公平さ。こころが安定している状態をあらわす色。



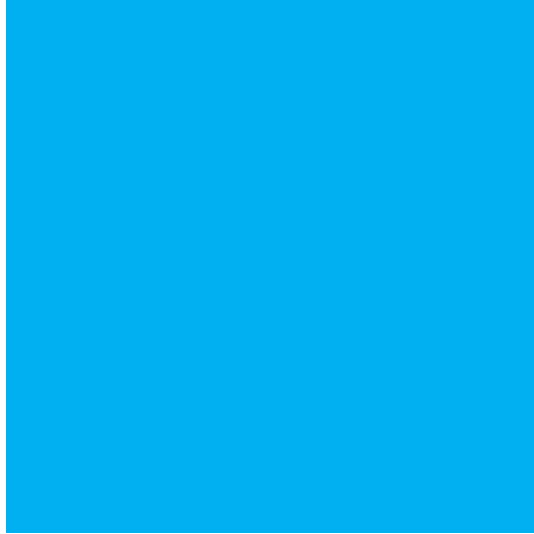
■緑色 親切な人になりたい時

補色⇄赤

人と人を繋ぐ架け橋、異なるものを結びつける色。

親切さ。人に合わせて親切にする時、緑色のオーラは表われます。

植物のように、他を思いやるこころの状態。



■空色 知性と公平さを身につけたい時

補色⇔オレンジ

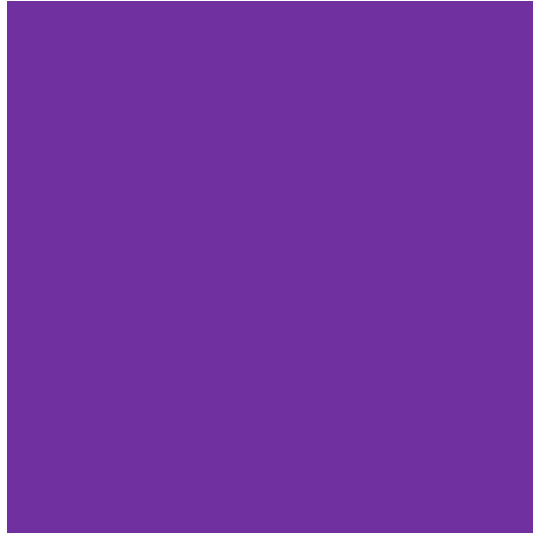
一つのことにとらわれない、広がりのある自由な精神。偏りのないモノの見方や素直さをあらわす色。自分のことより他人のことを優先する、やさしさと人に尽くす奉仕の色。女性によく見られる。集中力には欠ける。



■紺色 鋭い観察力を身につけたい時

補色⇔オレンジ

冷静さをあらわす色。集中している心の状態。専門的な知識、こだわりの強さをあらわす色。現実主義的な考え、用心深さ、シャイな心の状態。頭が切れる人、観察力が鋭い人、神経の緊張が高そうな人にみられ、寛容さに欠け、マニアックさをしめす色でもあります。親しみやすさに欠ける。



■紫 スピリチュアルな能力を高めたい時

補色⇔黄

この世を超えた何か、神秘的なものへの接触をあらわす色。病と癒しに関係。

この色を身につけると神秘的な出来事に遭遇しやすくなる。

直観力の鋭さゆえ、極端に走る性質をしめし、個性的で天才的な発想にあられる心の状態。

■ピンク 情熱をぶつける対象がいる時。結婚を控えた若い女性にあらわれやすい色。

■灰色 衰退しつつあるもの、衰えをあらわす色。テンションや関心が去っていく状態。

■茶色 プラスの意味では、忍耐力が高く、大きな目的の為に奉仕する色。

マイナスの意味では、チカラが次第に失われていく状態をあらわす色。何らかの不満を抱いている時（お金がない、願望が実現できないなど）

■黒 お葬式に行った方など。生霊、邪なるもの、衰弱・死をあらわす色。

憎しみ、絶望、妬み、悪意、病気といった意味ももちます。

生霊、邪なるものが原因で黒色になっている場合、手を8回叩くコトで浄化できます。

■白 神聖さ、純粋さをあらわす色。より上位なものをこの世に持ち込むための神聖な領域を示す色。

他の者への拒絶感、他を寄せ付けない潔癖な心の状態。

■銀 特別な契約関係を受け入れた色。プライドが高く、静寂を好み、崇高なものを求めている。

敏感なアンテナをもつ心の状態。

■金 特別なカリスマ性、リーダーとして人を導く人にあらわれる色。

色の補足

■色相環（しきそうかん）

私たちが良く知っている虹色は、赤→橙→黄→緑→青→藍→紫の七色。虹色の順番をリング状にならべると下のようになります。これを色相環と言います。



■補色（ほしょく）

色相環で正反対に位置する関係の色の組合せ、例えば「赤 / 青緑」「紫 / 黄緑」「黄色 / 青紫」など相補的な色を補色と言います。

黄色を中心に考えると、黄色から距離が近い色相は「黄緑」や「オレンジ」であり、逆に遠い色相は「青紫」です。

黄色と最も離れている色相は「青紫」であり、ちょうど黄色の対向に位置しています。

この補色の仕組みを使って、病院などの外科手術室では内装や手術着を薄い緑色にして、赤（血液の色）の残像である緑色を消去しています。